

第5表 15時海風発達時合成高層風向風速
(m/s) 1957

高さ (m)	4月 (5回)		5月 (6回)		平均 (11回)	
地上	347°	3.5	1°	4.3	356°	3.9
50	359°	2.8	346°	3.0	352°	2.9
150	355°	2.7	337°	3.6	344°	3.2
250	342°	1.8	325°	4.7	331°	3.3
350	252°	1.2	322°	4.9	312°	2.9
450	253°	1.2	318°	4.2	307°	2.6
550	244°	1.2	311°	3.7	294°	2.2
650	237°	1.7	322°	2.9	295°	1.9
750	227°	2.1	288°	2.6	264°	2.1
850	226°	2.4	279°	2.6	257°	2.3
950	229°	2.9	259°	2.7	245°	2.7
1,050	238°	3.0	230°	1.9	235°	2.5
1,150	240°	3.9	207°	1.9	229°	2.8
1,450	251°	3.8	202°	2.7	231°	2.9
(高さ) 海風	370		708		678	
(高さ) 陸風	763		1075		867	

いては、第4表末尾の通り海風の高さは平均338mにな

り、これより上層は975m付近まで陸風があるようである。上記の期間には海風の発達する15時の上層風観測がなかったが、幸に、1957年4、5月に15時の上層風観測が行われたので、上述と同様の方法で海陸風発達の日を定め、15時の海風の高度分布を求めた。第5表がこれで、地表近くで最強風が見られるのが特徴である。海風の高度は4月平均370m、5月平均708mとなっている。この上層には弱い南西風があるのは陸風と見られるが、この高さは4月763m、5月1075m付近となる。しかしその上層の一般流と融合して、判然とした高さが不明なことも多い。また高さによる風向変化の方向が9時と逆になっている。

文 献

- 二宮洸三, 1960: 新潟地方の海陸風について, 気象庁研究時報 Vol. 12, No. 10 p. 719-723
 舟田久之, 1967: 海陸風, 気象庁技術報告58号 富山県の風に関する調査報告 p. 48-76.
 山田三郎, 1969: 板付における悪視程の発生機構, 天気 Vol. 16, No. 11 p. 512-520.
 波多正二, 1969: 海陸風と四日市における SO₂ 濃度の日変化について, 東京管区地方気象研究会誌 No. 2, p. 74.

気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所
大気電気シンポジウム	昭和46年 1月21日~22日	日 本 気 象 学 会 会 大 気 電 気 学 会	気象庁内
レーダー気象月例会	〃 2月17日	気研台風研究部	気象庁内
大気大循環と長期予報月例会	〃 2月25日	気象庁予報部	気象庁内
航空気象月例会	〃 2月26日	東京航空地方気象台	東京航空地方気象台 研修室
春季講演会	〃 3月25日	日本気象学会	海洋研究所
THIRD INTERNATIONAL CONFERENCE ON WIND EFFECTS ON BUILDINGS AND STRUCTURES	〃 9月6~11日	(気象学会後援)	東 京

追加: 北海道支部研究発表会 3月9日 北海道支部 北海道大学